京丹後市教育振興計画
主な取組状況のまとめ

(令和4年度教育委員会活動の点検及び評価報告書(R5.11))より)

令和6年3月
京丹後市教育委員会

目 次

【重点目標1】 就学前の子どもの教育・保育環境を充実します	3
① 就学前教育の環境整備	
② 保育所、認定こども園及び小学校の連携強化	
【重点目標2】 確かな学力・生き抜く力を育みます	6
① 小中一貫教育の推進	
② 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上	
③ 確かな学力の育成	
④ 社会を生き抜く力の育成	
【重点目標3】 子どもを健やかに育む教育環境を充実します	11
① 子どもの安全・安心の確保	
② 学校施設環境等の整備充実	
③ 個に応じた支援体制の充実	
④ ボランティアによる学習支援の推進	
⑤ 教職員が子どもと向き合える環境づくりの推進	
【重点目標4】 豊かな人間性・社会性を育みます	15
① 人を思いやり、尊重する社会性の育成	
② 生徒指導体制、教育相談体制の充実	
③ 家庭・地域の教育力の向上	
④ 文化芸術を通じた豊かな感性、情緒の育成	
【重点目標5】 生涯にわたる豊かな学びを支援します	21
① 生涯学習の体制づくり	
② 人権教育の推進	
③ 社会教育施設等の整備充実	
【重点目標6】 歴史・文化芸術を活かし、豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育みます	25
① 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	
② 地域の文化財の総合的な保存と活用	
③ 資料館施設等の整備充実	
④ 文化芸術活動の推進	
【重点目標7】 たくましく健やかな体づくりと生涯スポーツを推進します	29
① 健康な体づくり	
② 食育の推進	
③ 地域スポーツ活動の推進	
④ 競技力の向上	
⑤ 社会体育施設等の整備充実	
⑥ スポーツ観光のまちづくり	

京丹後市教育振興計画に基づく取組状況について

- 令和4年度教育委員会活動の点検及び評価報告書(R5.11))より抜粋して掲載しています。
- 教育振興計画で定める1～7の重点目標毎に関連事業実績と、設定している「主な目標指標」の推移を掲載しています。

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
子ども未来課	蒲田 幸宏

重点目標	1	就学前の子どもの教育・保育環境を充実します
基本の方針	就学前の子どもの健やかな育ちを確保するため、保育ニーズに応じた保育環境の整備はもとより、保育士や教員の資質向上及び専門性を高めるために研修機会を設けるとともに、教育・保育を総合的に提供できる環境づくりに取り組みます。また、小学校への円滑な接続を図るため、保育所、認定こども園及び小学校の連携を強化します。 地域や家庭で安心して子育てができるよう、地域の実情や保護者のニーズを的確に把握しサービス情報の周知徹底を図るとともに、子育てや就学前教育についての情報交換や気軽に相談する場の確保に努めます。	

1. 施策の方向性 PLAN

1. 就学前教育の環境整備	①保護者の就労状況等や家庭環境に関わらず、就学前の教育・保育を総合的に提供できる環境整備を進め、待機児童ゼロの継続を目指します。 ②子育て家庭の子育ての不安に寄り添いサポートする体制の強化を図ります。 ③職員自身の自主的な資質向上を促すため、保育所・認定こども園の全職員を対象とした研修や担任会、公開保育の実施、職員の交流機会の充実を図ります。 ④保育所の民営化に伴い、長時間保育や休日保育の実施などサービスの拡充を行っています。今後も需要の高まりが想定できることから、さらなる民営化を検討していきます。
2. 保育所、認定こども園及び小学校の連携強化	①「京丹後市小中一貫教育保幼小接続モデルプラン」を参考に、各学園(中学校区)の接続プランを充実させて、就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図るための取組みを一層進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～平成36年度	
京丹後市保育所再編等推進計画	将来にわたり子どもたちにとってより良い保育を保障するため、地域の特性に配慮しながら、小規模保育所等の統廃合及び社会福祉法人への運営委託等を具体的に進めるために策定	平成23年3月	平成23年度～平成27年度	第2次京丹後市保育所再編等推進計画を策定(平成29年度～平成33年度)
京丹後市子ども・子育て支援事業計画	市における子どもの健やかな育ちと保護者の子育てを社会全体で支援する環境づくりを一層進めるため策定	平成27年3月	平成27年度～平成31年度	第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画を策定(令和2年度～令和6年度)

2. 主な取組と構成事務事業一覧 PLAN DO CHECK ACT

1. 就学前教育の環境整備		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
① 保護者の就労状況等や家庭環境に関わらず、就学前の教育・保育を総合的に提供できる環境整備を進め、待機児童ゼロの継続を目指します。 ② 子育て家庭の子育ての不安に寄り添いサポートする体制の強化を図ります。 ③ 職員自身の自主的な資質向上を促すため、保育所・認定こども園の全職員を対象とした研修や担任会、公開保育の実施、職員の交流機会の充実を図ります。 ④ 保育所の民営化に伴い、長時間保育や休日保育の実施などサービスの拡充を行っています。今後も需要の高まりが想定できることから、さらなる民営化を検討していきます。					
1	保育所管理運営事業	子ども未来課			
	児童の健康管理や会計年度任用職員を任用するほか、給食調理業務、幼児送迎業務等を実施し、円滑な保育所運営を行う。	165,631	157,131	175,553	現状維持
2	保育業務委託事業	子ども未来課			
	保育ニーズに対応するため、民間保育所等に保育業務を委託することで、効率的に子育て支援を推進する。	511,434	399,884	319,712	現状維持
3	保育所保育事業等補助金	子ども未来課			
	民間保育所等が行う事業に対して補助金を交付し、円滑な運営実施のための体制づくり等を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び保育士等の処遇改善を図る。	32,144	44,351	44,730	現状維持
4	子育て支援センター事業	子ども未来課			
	地域の子育て支援の拠点として市内8か所に子育て支援センターを設置し、育児相談や子育て情報の提供等、在宅で子育てをしている保護者とその子どもたちを支援する。	20,805	22,982	35,556	現状維持

1. 就学前教育の環境整備		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
5	保育支援事業	子ども未来課	4,064	4,326	5,697	拡大
	保護者の疾病等の理由により家庭での養育が一時的に困難となった児童や病気の回復期にある児童を一時的に保育し、保護者の子育てと就労を支援する。					
6	子育て環境整備事業	子ども未来課	1,181	2,941	6,000	拡大
	市内の子育て環境の充実を図るため、子育て支援団体や子育て支援活動、授乳用設備やおむつ交換台などを整備する市内の事業所等に補助金を交付するほか、市施設の子育て支援に資する設備を整備する。					
7	認定こども園教育利用管理運営事業	子ども未来課	54,728	78,418	94,057	現状維持
	児童の健康管理や会計年度任用職員の任用により、円滑な認定こども園(1号認定児)運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。					
8	認定こども園保育利用管理運営事業	子ども未来課	706,983	836,420	992,823	拡大
	児童の健康管理や会計年度任用職員の任用により、円滑な認定こども園(2号・3号認定児)運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。					
2. 保育所、認定こども園及び小学校の連携強化		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
①「京丹後市小中一貫教育保幼小接続モデルプラン」を参考に、各学園(中学校区)の接続プランを充実させて、就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図るための取組みを一層進めます。						
9	保幼小中一貫教育推進事業	学校教育課	189	449	874	現状維持
	「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育の推進に向け、協議会及び専門部会で調査研究を行う。また、研修等を実施し、指導の一貫性を通じて子どもたちの確かな学力、豊かな心を育成するとともに、「丹後学」の充実を図る。					

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	就学前の子どもの健やかな育ちを確保するため、保育ニーズに応じた保育環境の整備はもとより、保育士や教員の資質向上及び専門性を高めるために研修機会を設けるとともに、教育・保育を総合的に提供できる環境づくりに取り組みます。また、小学校への円滑な接続を図るため、保育所、認定こども園および小学校の連携を強化します。 地域や家庭で安心して子育てができるよう、地域の実情や保護者のニーズを的確に把握しサービス情報の周知徹底を図るとともに、子育てや就学前教育についての情報交換や気軽に相談する場の確保に努めます。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度	年度	年度	年度		
	病後児保育の実施事業所数	か所	0	H25	1	R4	1	R6
	子育て支援センター数	か所	7	H25	8	R4	8	R6
	一時預かり実施事業所数	か所	6	H25	10	R4	10	R6
	保育所・こども園職員の全体研修数	回	3	H25	3	R4	5	R6
	保育所・こども園待機児童数ゼロの継続	人	-	H25	0	R4	0	R6
民営化保育所設置数	か所	-	H25	4	R4	6	R6	
				(公設民営含む)				

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]
 ※この項目は、令和5年度版に更新しています

CHECK

ACT

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	《病後児保育の実施事業所数》 事業開始以降、徐々に利用が増加したが、新型コロナウイルスの影響で、近年は減少傾向にある。今後も保護者の就労支援のため、子どもが病気の後であっても安心して預けられる事業として、制度の周知を工夫する必要がある。 《子育て支援センター数》 市内8か所で開設しており、子育て相談に対応するとともに、子育て世代間の友達づくり、情報共有など居場所を提供することができた。子育て支援センターの需要は高まっていることから、開放日の拡充などより利用しやすい在り方も検討していく必要がある。 《一時預かり実施事業所数》 公営の6こども園と民営施設(ゆうかりこども園、あみの夢こども園、こうりゅう虹こども園及び大宮北保育所)で事業を実施、サービスを実施することができた。 《保育所・こども園職員の全体研修数》 オンラインでの開催も計画どおり全体研修を実施することができた。今後も、更なる教育・保育の質向上に向け、これ以外にも研修を実施していく必要がある。 《保育所・こども園待機児童数ゼロの継続》 保育所、こども園への入所・入園率が高まる中、受入体制を整えるうえで保育従事者の確保が課題ではあるが、待機児童ゼロを継続することができた。 市内の人口構造の変化に伴い、地域によって利用希望が集中するため、職員の確保と合わせ適切に利用調整を行う必要がある。 《民営化保育所設置数》 多様な保育の提供を行うことができることから、民営化の推進を行っているが、民間事業者についても保育従事者確保が課題となっており、計画的に移行できていない。今後も情勢などを見極めながら民営化の推進を行いたい。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和5年～令和6年度までの主な取組)
 ※この項目は、令和5年度版に更新しています

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	保育所の利用において、0～2歳の低年齢児の利用は継続的なニーズがあることから、このニーズに応える保育所・こども園の運営を続けるとともに、令和2年3月に策定した第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画と整合性を図りつつ、今後も子育て支援の施策の充実を図る。(第3期京丹後市子ども・子育て支援事業計画は令和6年度に策定予定)
	2	「京丹後市小中一貫教育保幼小接続モデルプラン」を参考に、各学園で保幼小の情報共有や教職員の交流と相互理解を深めるなど、小学校教育への円滑な接続を図るための取組みの充実を図る。

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
教育総務課	西村 隆
学校教育課	川村 義輝

重点目標	2 確かな学力・生き抜く力を育みます
基本的方針	保幼小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。 一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化や情報化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。 少子化の進行による学校の小規模化が予想されるなか、令和3年度に策定した学校適正配置基本計画に基づき、今後の学校の適正配置を進めます。

1. 施策の方向性

PLAN

1. 保幼小中一貫教育の推進	①学校教育改革構想に基づき、子どもたちの「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を育む保幼小中一貫教育を推進します。 ②学園(中学校区)を単位とした共通の目指す子ども像を設定し、その実現に向けて系統的で一貫性のある学校園の教育活動を一層進めます。 ③保幼小中一貫教育等について保護者や地域の理解を深めるとともに連携を強化するため、教育フォーラムを開催するなど、学校教育改革に関する情報提供・共有の機会を拡充します。 ④学識経験者や市民、保護者及び学校園関係者等が、学校教育改革を適切に検証、評価し、取り組みの改善を進めます。 ⑤保幼小中一貫教育等における目標の実現状況や教育活動の成果が明らかになるよう、学校・学園評価の充実に努め、地域とともにある学校・学園づくりを推進します。
2. 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上	①子どもの発達や学習の特性等に応じた系統的で一貫性のある教育課程により、すべての学校園で就学前から中学校卒業までの系統的な指導を実施するとともに、小中学校の接続期の指導を充実します。 ②新学習指導要領に求められる教職員の資質・能力を育成するため、授業実践力や本市の児童生徒の現状を踏まえた生徒指導力を高める研修を充実します。 ③加配教職員やスクールサポーターを効果的に配置し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導体制を整えます。 ④京丹後市への理解を深め、郷土への愛着と誇りを高めるとともに、地域生活への意欲を系統的に育む「丹後学」を、地域の人々の協力と参画により、すべての小中学校で実施します。 ⑤子どもたちの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立等について、学校園と家庭が連携した取り組みを充実します。 ⑥学校園、家庭及び地域が育みたい子ども像や課題を共有し、連携・協力して進める地域の教育環境づくりを推進します。 ⑦地域と学校の連携・協働の下、学校の教育活動に地域のボランティアが参画する「地域学校協働本部事業」を推進します。 ⑧放課後における学習や体験活動の充実に向け、学校、家庭及び地域が連携し、地域ぐるみの学習環境の体制づくりを進めます。
3. 確かな学力の育成	①保幼小中一貫教育により校種間を円滑に接続し、就学前から中学校卒業までの10年間を見通した学習指導を充実します。 ②全国学力・学習状況調査の結果が、現在、全国・府平均を概ね上回っている学力についても、診断結果をもとに児童生徒の学力状況をきめ細かく把握するとともに、分析結果を活用した指導改善により、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続的に行います。 ③すべての教科や特別活動に「言語活動」や「コミュニケーション活動」の充実を位置付け、系統的・継続的な指導を行います。 ④「丹後学」において京丹後市の学習素材を活かした体験的な学習や問題解決的な学習を行うなど、児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む学習を充実します。 ⑤主体的に学びに向かう力や思考力、判断力、表現力等、習得した知識や技能を活用する力を育成するため、教育実践モデル校等を指定し、その実践と成果をすべての学校園に普及します。 ⑥家庭学習が定着するよう、学校園と家庭が連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。 ⑦学校支援ボランティアや大学のもつ専門性を活用したり、小中学校と高等学校が積極的に連携・交流したりするなど、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を育むための取り組みを充実します。
4. 社会を生き抜く力の育成	①子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方・働き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。 ②「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通じた探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。 ③児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲と学習効果を高めるとともに、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成するため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。 ④小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。 ⑤国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成するため、多文化共生社会の視点に立ち、諸外国の文化や伝統を理解し興味・関心を深める国際理解教育を推進します。 ⑥環境の保全や主体的に環境に働きかける実践的態度・能力を育成するため、身近な環境に関心を持ち人間と環境との関わりについて理解を求める環境教育を推進します。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～平成36年度	
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

###

2. 主な取組と構成事務事業一覧 **PLAN** **DO** ※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照 **CHECK** **ACT**

1. 保幼小中一貫教育の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 学校教育改革構想に基づき、子どもたちの「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を育む保幼小中一貫教育を推進します。 ② 学園(中学校区)を単位とした共通の目指す子ども像を設定し、その実現に向けて系統的で一貫性のある学校園の教育活動を一層進めます。 ③ 保幼小中一貫教育等について保護者や地域の理解を深めるとともに連携を強化するため、教育フォーラムを開催するなど、学校教育改革に関する情報提供・共有の機会を拡充します。 ④ 学識経験者や市民、保護者及び学校園関係者等が、学校教育改革を適切に検証、評価し、取り組みの改善を進めます。 ⑤ 保幼小中一貫教育等における目標の実現状況や教育活動の成果が明らかになるよう、学校・学園評価の充実に努め、地域とともにある学校・学園づくりを推進します。						
1	保幼小中一貫教育推進事業《再掲》	学校教育課	-	-	-	現状維持
「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育の推進に向け、協議会及び専門部会で調査研究を行う。また、研修等を実施し、指導の一貫性を通じて子どもたちの確かな学力、豊かな心を育成するとともに、「丹後学」の充実を図る。						
2	保幼小中一貫教育実践事業	学校教育課	4,886	5,046	5,827	現状維持
「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、市内全域で保幼小中一貫教育を実践する。また、郷土への理解、愛着と誇りを高めるとともに将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。						
2. 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 子どもの発達や学習の特性等に応じた系統的で一貫性のある教育課程により、すべての学校園で就学前から中学校卒業までの系統的な指導を実施するとともに、小中学校の接続期の指導を充実します。 ② 新学習指導要領に求められる教職員の資質・能力を育成するため、授業実践力や本市の児童生徒の現状を踏まえた生徒指導力を高める研修を充実します。 ③ 加配教職員やスクールサポーターを効果的に配置し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導体制を整えます。 ④ 京丹後市への理解を深め、郷土への愛着と誇りを高めるとともに、地域生活への意欲を系統的に育む「丹後学」を、地域の人々の協力と参画により、すべての小中学校で実施します。 ⑤ 子どもたちの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立等について、学校園と家庭が連携した取り組みを充実します。 ⑥ 学校園、家庭及び地域が育みたい子ども像や課題を共有し、連携・協力して進める地域の教育環境づくりを推進します。 ⑦ 地域と学校の連携・協働の下、学校の教育活動に地域のボランティアが参画する「地域学校協働本部事業」を推進します。 ⑧ 放課後における学習や体験活動の充実に向け、学校、家庭及び地域が連携し、地域ぐるみの学習環境の体制作りを進めます。						
3	学習支援体制整備事業	学校教育課	330	729	860	現状維持
「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、放課後を活用した教育活動を実施することにより、子どもたちの学びを支援する仕組みづくりを進める。						
4	地域学校協働本部事業	生涯学習課	3,403	3,643	4,259	現状維持
「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実を図る。						
3. 確かな学力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 保幼小中一貫教育により校種間を円滑に接続し、就学前から中学校卒業までの10年間を見通した学習指導を充実します。 ② 全国学力・学習状況調査の結果が、現在、全国・府平均を概ね上回っている学力についても、診断結果をもとに児童生徒の学力状況をきめ細かく把握するとともに、分析結果を活用した指導改善により、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続的に進めます。 ③ すべての教科や特別活動に「言語活動」や「コミュニケーション活動」の充実を位置付け、系統的・継続的な指導を行います。 ④ 「丹後学」において京丹後市の学習素材を活かした体験的な学習や問題解決的な学習を行うなど、児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む学習を充実します。 ⑤ 主体的に学びに向かう力や思考力、判断力、表現力等、習得した知識や技能を活用する力を育成するため、教育実践モデル校等を指定し、その実践と成果をすべての学校園に普及します。 ⑥ 家庭学習が定着するよう、学校園と家庭が連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。 ⑦ 学校支援ボランティアや大学のもつ専門性を活用したり、小中学校と高等学校が積極的に連携・交流したりするなど、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を育むための取り組みを充実します。						
5	教科用図書採択事業	学校教育課	-	-	-	統合(整理)
丹後教科用図書採択地区協議会において教科用図書の調査・研究を行い、市立小中学校で使用される教科用図書の公正かつ適正な採択を行う。						

3. 確かな学力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
6	学務経費	学校教育課	5,429	4,763	4,972	現状維持
	学校保健安全法に基づく就学時健康診断を行うとともに、学齢簿の管理、学校管理下での安全衛生や事故災害に対応する。また、丹後教科用図書採択地区協議会において教科用図書の調査・研究を行い、市立小中学校で使用する教科用図書の公正かつ適正な採択を行う。					
7	小学校丹後学等教育活動実践事業	学校教育課	-	1,635	1,994	統合(整理)
	授業改善や教員の指導力向上を図るため、府の研究指定校を受けて教育実践に取り組むとともに、「丹後学」の充実を図る。また、教育課題の解決に向けた研究事業に取り組むほか、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。					
8	中学校丹後学等教育活動実践事業	学校教育課	-	1,241	1,376	統合(整理)
	教員の指導力向上や生徒の自己肯定感を高めるため、府の研究指定を受け教育実践に取り組むとともに、「丹後学」の充実を図る。また、教育課題の解決に向けた研究事業に取り組むほか、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。					
9	小学校教育振興事業	学校教育課	14,953	17,722	59,089	現状維持
	副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導を実践し、学力等の向上を図る。					
10	小学校教育振興備品整備事業	学校教育課	11,010	10,508	9,220	現状維持
	授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、児童の主體的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。					
11	小学校就学援助事業	学校教育課	19,704	19,691	24,006	現状維持
	要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する児童の保護者等の経済的負担を軽減する。					
12	中学校教育振興事業	学校教育課	20,735	25,955	25,101	現状維持
	副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導の実践や部活動、体育大会等への参加を支援し、学力等の向上を図る。					
13	中学校教育振興備品整備事業	学校教育課	8,418	10,874	8,238	現状維持
	授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、生徒の主體的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。					
14	中学校就学援助事業	学校教育課	20,348	18,894	21,265	現状維持
	要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する生徒の保護者等の経済的負担を軽減する。					
4. 社会を生き抜く力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方・働き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。 ② 「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通じた探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。 ③ 児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲と学習効果を高めるとともに、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成するため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。 ④ 小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。 ⑤ 国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成するため、多文化共生社会の視点に立ち、諸外国の文化や伝統を理解し興味・関心を深める国際理解教育を推進します。 ⑥ 環境の保全や主體的に環境に働きかける実践的態度・能力を育成するため、身近な環境に関心を持ち人間と環境との関わりについて理解を求める環境教育を推進します。						
15	学校情報化推進事業	学校教育課	42,202	56,940	49,739	現状維持
	小中学校の情報通信ネットワークの整備・維持管理を行うとともに、情報管理の徹底と学校情報化を行う。また、ICTを活用した学習環境を推進する。					
16	児童生徒国際交流事業	学校教育課	44	-	-	統合(整理)
	国際交流事業を推進することにより、語学力の向上はもとより、国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成する。					
17	グローバル人材育成事業	学校教育課	-	7,296	16,566	拡大
	STEAM教育をはじめ、国際交流事業を推進することにより、語学力の向上はもとより、国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成する。					
18	外国語指導助手招致事業	教育総務課	24,805	25,458	29,002	現状維持
	一般財団法人自治体国際化協会(JETプログラム)の斡旋を受け、外国語指導助手(ALT)を招致・任用し、小中学校で授業等の補助を行うことで、外国語教育及び国際理解教育の促進を図る。					
19	国際交流員招致事業	学校教育課	1,883	4,020	4,494	現状維持
	一般財団法人自治体国際化協会の「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用して国際交流員を任用し、現代社会のグローバル化に対応する。					

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	保幼小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。 一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化や情報化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。 少子化の進行による学校の小規模化が予想されるなか、令和3年度に策定した学校適正配置基本計画に基づき、今後の学校の適正配置を進めます。							
	主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時 年度	実績値(現状) 年度	目標値 年度		
	学校園関係者による中学校区(学園)ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立(実施中学校区)	中学校区	0 H25	6学園 R4	6 (全中学校区で実施)	R6		
	学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童の割合<小学生>	%	73.2 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙(小6) H25	67.6 R4	80%以上	R6		
	学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の生徒の割合<中学生>	%	50.6 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙(中3) H25	53.5 R4	70%以上	R6		
	一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着	%	小中学校各教科の全国平均正答率 -	中学校英語のみ全国平均以上 R4	市平均の全教科全国平均以上	R6		
	将来の夢や目標を持っている生徒の割合<中学生>	%	70.0 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙(中3) H25	68.7 R4	90%以上	R6		

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	《学校園関係者による中学校区(学園)ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立(実施中学校区)》 各学校の関係者評価は、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤に作成している。また、各学園の学校関係者評価の必須項目に「保幼小中一貫教育の推進」を設定することで、学園の取組み等の検証・評価を各校園単位でPDCAサイクルにより進めることができた。今後は、全ての学園に設置されている学校運営協議会を学園運営協議会と新たに名称を変更し、学校園所・家庭・地域の横の連携を更に充実させた上で、今求められる目標や評価について、検討していく必要がある。 《学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童生徒の割合》 小学校の家庭学習時間は年々減少傾向にあり、今年度も小中学校ともに減少という結果であった。授業と家庭学習を連動させた指導の改善が求められる。課題の個別最適化についても考えていく必要がある。市学力向上対策会議の重点課題として取り組み、各校・各学園での取組みを一層充実させ、自主的・自発的な家庭学習の習慣化を目指し、適時性を意識した系統的な指導を充実させる。その際、オンラインによるタブレットの持ち帰り学習も効果的に進める。また、習い事等の子どもたちの生活が多様化していることから、一律に毎日1時間以上という目標設定がよいかどうか検討していく必要がある。 《一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着》 全国学力・学習状況調査は、小中学校ともに国語・算数(数学)が全国平均を下回った。中学校の英語のみ全国平均を上回った。新学習指導要領の下での指導が始まり、求められる資質・能力の向上を目指す授業改善に取り組んでいるかどうかの見直しが必要である。質問調査の学習活動に係る項目に沿って授業を見直すことが大切である。また、課題に焦点化した学力向上の取組みを保幼小中一貫教育を手段として、各校・各学園で一層推進していく必要がある。そのために市学力向上対策会議の在り方を見直ししていく。 《将来の夢や目標を持っている生徒の割合》 年々減少の傾向にあり、今年度も若干減少した。目的意識を持たせるための意図的な働きかけが必要である。児童生徒が、学校、家庭及び地域において学んだことを振り返り、新たな学習や生活への意欲につなげ将来の生き方を考える活動の中で、児童生徒が学びを記録し蓄積する教材として「キャリアパスポート」を活用し、対話的に関わり個の成長を促す系統的な指導を進める等、キャリア教育のより一層の推進・充実を図る必要がある。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和5年～令和6年度までの主な取組)

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	28年度からの小中一貫教育の全市展開では、実質的に保育所・幼保連携型認定こども園の就学前1年を含めた10年間の一貫教育を行っていることから、令和3年1月に名称を「保幼小中一貫教育」に改めた。学園単位によるPDCAサイクルの実施とその検証・評価に基づく保幼小中一貫教育推進基本計画等の適切な改訂を行う。また、各学園を会場とした市教育フォーラム等の啓発活動により、教職員・保護者・地域住民への成果の明確化を図る。
	2	学園コーディネーター等の配置を継続するとともに、各学園に設置された学校・地域連携協議会の学園運営協議会(コミュニティ・スクール)への移行が令和2年度に完了したことから、学校、家庭、地域が連携した学習環境の体制作り、目指す子ども像に基づく学校・地域が連携した取組を一層推進する。
	3	課題解決能力や多様な他者と協働する力など今求められる資質・能力を育成するため、「探究的な学び」を手段として各学園・各校で系統的で一貫性のある指導を充実させる。授業改善・授業研究を更に推進するとともに、京都府及び全国学力・学習状況調査の学園分析結果を活用し、学力観・学習観・指導観の転換を図る。
	4	総合的な学習の時間を活用した「丹後学モデルカリキュラム」の目校園化に向けた取組と「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実を図るためのクラウド環境でのICTの活用を推進していく。また、中学生の海外派遣やSTEAM教育の推進・英語力の向上に取り組むとともに、児童生徒の国際交流等を推進することにより、国際社会を生きる日本人としての基礎的な能力の育成を図る。

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
教育総務課	西村 隆
学校教育課	川村 義輝
生涯学習課	安達 純

重点目標	3	子どもを健やかに育む教育環境を充実します
基本的方針	災害や事件・事故等に備えた安全確保のため、学校施設の老朽化対策等を計画的に進めるとともに、児童生徒が自らの安全を守るための能力を身に付けさせる安全教育や、また、ボランティアの協力を得る等、地域が一体となって支える教育環境づくりを進めます。 また、年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、すべての子どもの健やかな育ちを保障する教育環境を整備します。 教職員の業務改善・時間外勤務縮減を強力に実行し、教職員が一人ひとりの子どもに向き合える環境を整備します。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 子どもの安全・安心の確保	①児童生徒を事件や事故から守るため、スクールガード・リーダーによる巡回指導や子ども安心パトロール車の運行等、保護者や地域ボランティアの協力を得ながら、学校内外における安全確保に努めます。 ②学校再配置による校区の拡充に伴い、遠距離通学用スクールバスの安全な運行管理及び車両管理を実施します。 ③児童生徒自身の危機対応能力を育むため、各学校の危機管理マニュアルに基づく防災教育や安全教育を計画的・継続的に実施します。
2. 学校施設環境等の整備充実	①少子化の進行を踏まえ、適正な学校規模を検討する中で、必要な施設整備を進めます。 ②教育環境の維持・改善のため、トイレの洋式化をはじめ学校施設・設備の改修、修繕等を計画的に進めます。 ③児童生徒の安全確保に向け、計画的かつ効果的な学校施設の老朽化対策を進めます。 ④安全・安心な学校給食を提供するため、より衛生的で安全性を重視した給食施設の整備を計画的に進めます。
3. 個に応じた支援体制の充実	①発達障害等を含む障害のある子ども一人ひとりのニーズに対応したきめ細かな支援により教育の一層の充実を図るため、学校園と保護者、行政、医療及び関係機関等が広く連携し、乳幼児期から青年期までを見通した特別支援教育の体制整備を進めます。 ②外国語を母語とするなど日本語の習得が十分ではない児童生徒に対し、スクールサポーターを配置するなど個別に日本語支援を行う体制を整備します。
4. ボランティアによる学習支援の推進	①市民のボランティア意識を高め、地域と学校の連携・協働の下、学校の教育活動に地域のボランティアが参画する「地域学校協働本部事業」の推進など自らの知識や学習で培った技術などを学校で、児童に紹介する機会づくりを進めます。 ②市民ボランティアが、地域の中で、子どもたちの活動を支える環境づくりを進めます。
5. 教職員が子どもと向き合える環境づくりの推進	①本市の教職員の働き方改革実行計画を強力に進め、教職員が心身ともに健康で、一人ひとりの子どもに颯爽と向き合える環境づくりを進めます。 ②教職員のメンタルヘルス対策の推進、校務支援システムの活用、部活動指導員の配置等、教職員の負担を軽減する取組を推進します。 ③「京都式チーム学校」をより良く機能させるために、多様な専門性を有する人材の配置充実や学校体制の強化を図り、学校現場における業務改善の取組・教員の負担軽減策を推進します。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市学校施設耐震化計画	耐震化に対する国の動向や財政措置の状況を的確にとらえつつ、本市における学校施設の耐震化を可能な限り早く、計画的に進めていくことを目的に、本計画を定めるもの	平成22年11月	平成22年度～平成26年度	
京丹後市学校適正配置基本計画	急速に少子化が進むなか、本市の次代を担っていく子どもたちに、より良い教育環境や教育条件を整えるため、学校力を高めるための学校規模などを考えた学校適正配置の取組を進めていくために策定	令和4年2月	令和3年度～令和12年度	前期(R3～R7年度)と後期(R8～R12年度)に区分し、段階的に再配置を進める
京丹後市学校施設の長寿命化計画(学校施設の個別施設計画)	文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)の方針に基づき、学校施設の実態把握及び分析を行い、本市の実情に即した基本的な整備方針や施設整備の水準について示し、長寿命化の観点から財政負担の低減及び平準化を図り、学校施設の維持管理を進めていくことを目的に策定	令和3年3月	令和3年度～令和12年度	

1. 子どもの安全・安心の確保		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 児童生徒を事件や事故から守るため、スクールガード・リーダーによる巡回指導や子ども安心パトロール車の運行等、保護者や地域ボランティアの協力を得ながら、学校内外における安全確保に努めます。 ② 学校再配置による校区の拡充に伴い、遠距離通学用スクールバスの安全な運行管理及び車両管理を実施します。 ③ 児童生徒自身の危機対応能力を育むため、各学校の危機管理マニュアルに基づく防災教育や安全教育を計画的・継続的に実施します。						
1	学校医委嘱事業	学校教育課	19,758	19,672	19,611	現状維持
学校保健安全法に基づき、各学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を置き、児童生徒の健康の保持増進及び教育現場の環境衛生の維持向上を図る。						
2	学務経費	学校教育課	5,429	4,763	4,972	現状維持
学校保健安全法に基づく就学時健康診断を行うとともに、学齢簿の管理、学校管理下での安全衛生や事故災害に対応する。また、丹後教科用図書採択地区協議会において教科用図書の調査・研究を行い、市立小中学校で使用する教科用図書の公正かつ適正な採択を行う。						
3	学校安全対策事業	学校教育課	5,039	6,514	6,693	現状維持
保護者や地域の協力を得ながら安全で安心できる学校づくりを推進し、児童生徒を事件や事故から守る。						
4	児童教職員健康管理事業	学校教育課	9,538	7,810	9,878	現状維持
児童及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講じることにより、児童及び教職員の健康の保持増進と小学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。						
5	児童教職員健康管理事業【繰越】	学校教育課	13,924	15,638	-	
新型コロナウイルスの感染流行が長期化する中、児童の安全安心な学習環境を確保しつつ教育活動を着実に継続するために必要な環境整備を推進する。						
6	生徒教職員健康管理事業	学校教育課	6,393	5,608	6,609	現状維持
生徒及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講じることにより、生徒及び教職員の健康の保持増進と中学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。						
7	生徒教職員健康管理事業【繰越】	学校教育課	5,594	5,681	-	
新型コロナウイルスの感染流行が長期化する中、生徒の安全安心な学習環境を確保しつつ、教育活動を着実に継続するために必要な環境整備を推進する。						
8	小学校スクールバス運行管理事業	学校教育課	88,791	83,322	83,293	現状維持
遠距離通学及び通学路の状況や冬期積雪時等、特に必要と認めた児童の通学のためにスクールバスを運行する。						
9	小学校通学支援事業	学校教育課	283	202	267	現状維持
遠距離通学をする児童を対象に、通学の状況に応じて遠距離通学補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。						
10	中学校スクールバス運行管理事業	学校教育課	71,704	60,100	64,348	現状維持
遠距離通学及び通学路の状況や冬期積雪時等、特に必要と認めた生徒の通学のためにスクールバスを運行する。						
11	中学校通学支援事業	学校教育課	195	188	176	現状維持
自転車通学をする生徒を対象に、通学の状況に応じてヘルメット購入補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。						
2. 学校施設環境等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 少子化の進行を踏まえ、適正な学校規模を検討する中で、必要な施設整備を進めます。 ② 教育環境の維持・改善のため、トイレの洋式化をはじめ学校施設・設備の改修、修繕等を計画的に進めます。 ③ 児童生徒の安全確保に向け、計画的かつ効果的な学校施設の老朽化対策を進めます。 ④ 安全・安心な学校給食を提供するため、より衛生的で安全性を重視した給食施設の整備を計画的に進めます。						
12	学校適正配置推進事業	学校教育課	-	-	-	現状維持
京丹後市学校適正配置基本計画に基づく「学校づくり準備協議会」を設置し、学校再配置による新しい学校づくりに向けた取組を推進する。						
13	小学校施設改修事業	教育総務課	70,973	118,630	285,840	現状維持
小学校施設における改修工事等を行い、児童が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。						
14	小学校施設管理事業	教育総務課	27,171	30,990	25,597	現状維持
学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。						
15	中学校施設改修事業	教育総務課	210,763	12,756	350,600	現状維持
中学校施設における改修工事等を行い、生徒が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。						
16	中学校施設改修事業【繰越】	教育総務課	4,921	-	-	
「新しい生活様式」を踏まえ、健やかな学びの保障を目指すため、新型コロナウイルス感染症対策として特別教室の空調化設計を行い、教育環境を整備する。						

2. 学校施設環境等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
17	中学校施設管理事業	教育総務課	9,548	10,237	10,287	現状維持
	学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。					
18	小学校管理運営事業	学校教育課	151,908	159,820	171,246	現状維持
	適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、小学校における円滑な教育活動を実施する。					
19	中学校管理運営事業	学校教育課	64,079	71,335	73,037	現状維持
	適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、中学校における円滑な教育活動を実施する。					
20	網野給食センター管理運営事業	学校教育課	31,452	33,133	39,151	拡大
	網野地域の小学校及び中学校に栄養バランスの取れた給食を提供し、児童生徒の心身の健全な発達に寄与する。					
21	小学校給食管理運営事業	学校教育課	167,910	192,224	223,308	拡大
	児童の心身の健全な発達に寄与するため、栄養バランスのとれた給食を提供する。					
22	中学校給食管理運営事業	学校教育課	49,871	71,672	81,522	拡大
	生徒の心身の健全な発達に寄与するため、栄養バランスのとれた給食を提供する。					
23	学校給食センター施設整備事業	教育総務課		4,953	567,000	拡大
	「学校給食衛生管理基準」に適合し、食物アレルギー対応を考慮した、より衛生的で安全性を持つ給食施設を整備する。					
24	学校給食一般経費	学校教育課	560	496	893	現状維持
	学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、献立研究会の活発な活動を促し、衛生管理や栄養面等での充実を図る。					
25	公立学校施設災害復旧事業	教育総務課	3,850	1,573	-	縮小
	台風11号及び台風14号の強風等により被災した学校施設の復旧を図る。					
3. 個に応じた支援体制の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 発達障害等を含む障害のある子ども一人ひとりのニーズに対応したきめ細かな支援により教育の一層の充実を図るため、学校園と保護者、行政、医療及び関係機関等が広く連携し、乳幼児期から青年期までを見通した特別支援教育の体制整備を進めます。						
② 外国語を母語とするなど日本語の習得が十分ではない児童生徒に対し、スクールサポーターを配置するなど個別に日本語支援を行う体制を整備します。						
26	小学校スクールサポーター等設置事業	学校教育課	60,282	60,714	86,210	現状維持
	スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。					
27	中学校スクールサポーター等設置事業	学校教育課	38,027	41,152	47,932	現状維持
	スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。					
4. ボランティアによる学習支援の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 市民のボランティア意識を高め、地域と学校の連携・協働の下、学校の教育活動に地域のボランティアが参画する「地域学校協働本部事業」の推進など自らの知識や学習で培った技術などを学校で、児童に紹介する機会づくりを進めます。						
② 市民ボランティアが、地域の中で、子どもたちの活動を支える環境づくりを進めます。						
28	地域学校協働本部事業《再掲》	生涯学習課	-	-	-	現状維持
	「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実を図る。					
5. 教職員が子どもと向き合える環境づくりの推進		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 本市の教職員の働き方改革実行計画を強力に進め、教職員が心身ともに健康で、一人ひとりの子どもに颯爽と向き合える環境づくりを進めます。						
② 教職員のメンタルヘルス対策の推進、校務支援システムの活用、部活動指導員の配置等、教職員の負担を軽減する取組みを推進します。						
③ 「京都式チーム学校」をより良く機能させるために、多様な専門性を有する人材の配置充実や学校体制の強化を図り、学校現場における業務改善の取組み・教員の負担軽減策を推進します。						
29	共同学校事務室運営事業	学校教育課	226	3,000	4,360	現状維持
	学校事務処理の適正化及び標準化、効率化、学校マネジメント機能の強化等を図るため、全学園に共同学校事務室を設置し、学校の教育力・組織力の向上を推進する。					

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	災害や事件・事故等に備えた安全確保のため、学校施設の老朽化対策等を計画的に進めるとともに、児童生徒が自らの安全を守るための能力を身に付けさせる安全教育や、また、ボランティアの協力を得る等、地域が一体となって支える教育環境づくりを進めます。また、年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、すべての子どもの健やかな育ちを保障する教育環境を整備します。教職員の業務改善・時間外勤務縮減を強力に実行し、教職員が一人ひとりの子どもに向き合える環境を整備します。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度	年度	年度	年度	年度	年度
	市立小学校の耐震化	%	88.5	H25	100	R4	100	R6
	市立中学校の耐震化	%	93.5	H25	100	R4	100	R6
	非構造部材の耐震対策	%	0(調査中)	H26	100	R4	100	R6
	児童生徒用トイレの洋式化整備校数<小学生>	校	-		16	R4	17	R6
	児童生徒用トイレの洋式化整備校数<中学生>	校	-		1	R4	6	R6
	学校支援ボランティア登録者数	人	427	H25	557	R4	600	R6
	時間外勤務月45時間超(年平均)の教職員数<小学校>	人	-	H25	112	R4	0	R6
時間外勤務月45時間超(年平均)の教職員数<中学校>	人	-	H25	106	R4	0	R6	

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	《市立小学校の耐震化》 学校施設耐震化計画による小学校の耐震化は平成27年度をもって完了した。 《市立中学校の耐震化》 学校施設耐震化計画による中学校の耐震化は平成26年度をもって完了した。 《非構造部材の耐震対策》 国が指導する大規模空間(体育館やランチルームなど200㎡以上の空間を有する箇所等)の非構造部材耐震対策は、平成28年度をもって完了した。 《児童生徒用トイレの洋式化整備校数》 小学校を優先して学校施設の児童生徒用、身障者用、体育館等のトイレ洋式化整備を計画的に実施するため、前年度に設計業務を行い、翌年度に整備工事を実施する。令和5年度の丹後小の整備をもって、小学校は全て完了した。中学校は令和5年度に久美浜中・丹後中の整備を行い、令和6年度に他の中学校も整備し、中学校の整備を完了する予定。 《学校支援ボランティア登録者数》 ボランティア登録者数は増加した。高齢化が進んでいるため、学校のニーズに応じたボランティアの確保が課題である。 《時間外勤務月45時間超(年平均)の教職員数》 令和3年度はコロナ禍の中、小学校で前年度比5.1%の増加となったが、令和4年度は、前年度比で7.4%の減少、令和2年度比でも2.3%の減少となった。令和5年度は京丹後市教職員の働き方改革実行計画の段階的目標設定(45時間以内100%達成)の最終年度となっているので、目標達成を目指し、教育委員会事務局と学校とがさらに連携を強化して取組を推進していく必要がある。なお、令和5年度1月時点の状況では、令和4年度同期比で減少傾向となっている。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和5年～令和6年度までの主な取組)

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	児童生徒を事件や事故から守るため、スクールガード・リーダーによる巡回指導及び子ども安心パトロール車の運行を継続して実施するとともに、除雪活動や子どもたちを見守る地域ボランティア等の拡充を図る。
	2	老朽化が進む学校施設を適切に維持管理を行うとともに教育環境の改善を図るため、計画的にトイレの洋式化事業を進める。また学校施設の長寿命化計画を定め、中長期的な視点で改修等を行う。
	3	特別な支援が必要な子どものニーズに対応するため、学校園へのスクールサポーター(介護支援員)を継続配置するとともに、学校園及び保護者、関係機関が連携し、特別支援教育体制整備の推進を図る。
	4	ボランティア人材の発掘・育成・確保に重点を置きながら、より効果的、効率的なコーディネーターの配置等、多様化する学校ニーズに対応できる推進体制整備を図る。

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
学校教育課	川村 義輝
生涯学習課	安達 純
子ども未来課	蒲田 幸宏

重点目標	4	豊かな人間性・社会性を育みます
基本の方針	学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切に育む豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成	①保幼小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。 ②生命を大切にする心や他人を尊重する心などを育むとともに、新たに教科となった道徳科をはじめ、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。 ③地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。 ④各学園(中学校区)において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取組みを協働して進めます。 ⑤情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や保護者、学校支援ボランティア等と連携し、系統のかつ一貫性のある指導体制を整備します。
2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実	①子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や内面理解の充実を図ります。 ②学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。 ③京丹後市いじめ防止等基本方針に基づき、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進します。 ④不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰と社会的自立を支援するため、教育支援センター「麦わら」の相談・支援体制の充実及び機能強化を図ります。
3. 家庭・地域の教育力の向上	①各学園(中学校区)の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。 ②家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にする気持ちなどを養う最も重要な役割を担う場ととらえ、PTA等と連携しながら、乳幼児期から思春期(中学生)までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。 ③子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、家庭子ども相談室による相談や関係機関の連携による支援を実施します。また、家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。 ④子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動の充実を図る。 ⑤子どもたちの放課後の居場所づくりのため、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行うとともに、地域における子どもたちの活動拠点を確保するための事業の拡充を進めます。 ⑥保護者の就労状況の多様化や家庭環境の変化に伴い、放課後における児童の健全育成を図るため実施している放課後児童健全育成事業の利用が増加しています。利用ニーズを的確に把握するとともに、サービス体制や施設環境の整備を推進し、待機児童ゼロを継続します。 また、青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。
4. 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成	①子どもが生涯にわたって自然や歴史、仲間、多様な人々と関わり合う体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。 ②学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市いじめ防止等基本方針	国、府、学校、地域社会、家庭及びその他の関係者が連携のもと、社会総がかりでいじめの問題の克服に向けて取り組むとともに、いじめ防止対策推進法第12条の規定に基づき、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定	平成26年6月	計画期間の定めなし	策定から3年経過を目途に見直し(平成30年度見直し)

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	

###

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
①	保幼小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。					
②	生命を大切にすする心や他人を尊重する心などを育むとともに、新たに教科となった道徳科をはじめ、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。					
③	地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。					
④	各学園(中学校区)において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取組を協働して進めます。					
⑤	情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や保護者、学校支援ボランティア等と連携し、系統的一貫性のある指導体制を整備します。					
1	小学校教育推進活動実践事業	学校教育課				
	府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。		1,232	-	-	統合(整理)
2	小学校丹後学等教育活動実践事業《再掲》	学校教育課				
	授業改善や教員の指導力向上を図るため、府の研究指定校を受けて教育実践に取り組むとともに、「丹後学」の充実を図る。 また、教育課題の解決に向けた研究事業に取り組むほか、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。		-	-	-	現状維持
3	中学校教育推進活動実践事業	学校教育課				
	府の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。		4,077	-	-	統合(整理)
4	中学校丹後学等教育活動実践事業《再掲》	学校教育課				
	教員の指導力向上や生徒の自己肯定感を高めるため、府の研究指定を受け教育実践に取り組むとともに、「丹後学」の充実を図る。 また、教育課題の解決に向けた研究事業に取り組むほか、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。		-	-	-	現状維持
2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
①	子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や、内面理解の充実を図ります。					
②	学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。					
③	京丹後市いじめ防止等基本方針に基づき、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進します。					
④	不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰と社会的自立を支援するため、教育支援センター「麦わら」の相談・支援体制の充実及び機能強化を図ります。					
5	いじめ防止啓発推進事業	学校教育課				
	「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づきいじめ防止等の啓発活動を実施し、市と市民が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。		1,523	1,739	1,746	現状維持
6	いじめ防止対策等運営事業	学校教育課				
	いじめ防止対策等専門委員会及びいじめ問題対策連絡会議を設置し、関係機関が一体となって、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。		249	252	403	現状維持
7	指導主事設置事業	学校教育課				
	学校教育及び就学前教育の充実を図るため、指導主事を配置し、専門的事項に関する指導等を行う。		12,626	12,642	12,868	現状維持
8	就学支援・教育相談事業	学校教育課				
	児童生徒の不登校など学校不適応の状況を、発達検査などにより把握・分析し、相談・支援体制を整え、児童生徒が安定した学校生活を送ることができるように支援する。		309	783	865	現状維持
9	教育支援センター管理運営事業	学校教育課				
	不登校やその傾向にある児童生徒について、個々の状況に応じ、広く将来の社会的自立が目指せるようになるための様々な支援を実践する。		10,209	10,564	15,017	現状維持
10	小学校スクールサポーター等設置事業《再掲》	学校教育課				
	スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。		-	-	-	現状維持

2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
11	中学校スクールサポーター等設置事業《再掲》 スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。	-	-	-	現状維持	
3. 家庭・地域の教育力の向上		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 各学園(中学校区)の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。 ② 家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にすることを養う最も重要な役割を担う場ととらえ、PTA等と連携しながら、乳幼児期から思春期(中学生)までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。 ③ 子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、家庭子ども相談室による相談や関係機関の連携による支援を実施します。また、家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。 ④ 子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動の充実を図る。 ⑤ 子どもたちの放課後の居場所づくりのため、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行うとともに、地域における子どもたちの活動拠点を確保するための事業の拡充を進めます。 ⑥ 保護者の就労状況の多様化や家庭環境の変化に伴い、放課後における児童の健全育成を図るため実施している放課後児童健全育成事業の利用が増加しています。利用ニーズを的確に把握するとともに、サービス体制や施設環境の整備を推進し、待機児童ゼロを継続します。また、青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。						
12	家庭子ども相談室事業	子ども未来課	210	366	3,702	拡大
家庭児童の適正な養育及び福祉の向上を図る。						
13	家庭教育事業	生涯学習課	1,026	1,584	1,721	現状維持
発達段階に応じた学習及び交流機会を提供するとともに、PTA活動を支援することによって、全ての教育の出発点であり、子どもの成長の基礎となる家庭教育を推進する。						
14	放課後児童健全育成事業	子ども未来課	219,211	245,621	276,229	現状維持
保護者の就労や疾病その他の理由により、学校の放課後、長期休業期及び土・日曜日等に適切な保育が受けられないと認められる家庭の小学校の児童に対し、適切な遊びや生活の場を与えることにより、児童の健全な育成と子育て支援の推進を図る。						
15	放課後子ども教室事業	子ども未来課	433	658	865	現状維持
放課後に小学校の余裕教室を子どもたちの安全・安心な居場所として活用し、地域住民の参画により、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。						
4. 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 子どもが生涯にわたって自然や歴史、仲間、多様な人々と関わり合う体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。 ② 学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。						

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切に育む豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。							
	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
主な目標指標				年度		年度		年度
	不登校児童の出現率<小学校>	—	5人/0.16%	H25	15人/0.73%	R4	減少させる	R6
	不登校生徒の出現率<中学校>	—	47人/2.49%	H25	63人/4.90%	R4	減少させる	R6
	いじめの認知件数/認知率<小学校>	—	386件/12.7%	H25	649件/27.8%	R4	減少させる	R6

目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度		年度		年度
いじめの認知件数/認知率<中学校>	—	189件/10.2%	H25	66件 5.1%	R4	減少させる	R6
認知されたいじめの年度内解消率<小学校>	—	357件/92.5%	H25	96.9%	R4	100%	R6
認知されたいじめの年度内解消率<中学校>	—	181件/95.8%	H25	95.5%	R4	100%	R6
いじめはいけないことだという意識がある児童の割合<小学生>	%	97.0 「全国学力・学習 状況調査」児童 生徒質問用紙 小6	H25	97.2	R4	増加させる	R6
いじめはいけないことだという意識がある生徒の割合<中学校>	%	90.9 「全国学力・学習 状況調査」児童 生徒質問用紙 中3	H25	96.6	R4	増加させる	R6
学校のきまりや規則を守る意識がある児童の割合<小学生>	%	93.8 「全国学力・学習 状況調査」児童 生徒質問用紙 小6	H25	実施なし	R4	増加させる	R6
学校のきまりや規則を守る意識がある生徒の割合<中学校>	%	90.8 「全国学力・学習 状況調査」児童 生徒質問用紙 中3	H25	実施なし	R4	増加させる	R6
人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童の割合<小学生>	%	94.4 「全国学力・学習 状況調査」児童 生徒質問用紙 小6	H25	実施なし	R4	増加させる	R6
人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の割合<中学生>	%	95.2 「全国学力・学習 状況調査」児童 生徒質問用紙 中3	H25	実施なし	R4	増加させる	R6
人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合<小学生>	%	94.0 「全国学力・学習 状況調査」児童 生徒質問用紙 小6	H25	96.0	R4	増加させる	R6
人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合<中学生>	%	93.2 「全国学力・学習 状況調査」児童 生徒質問用紙 中3	H25	97.1	R4	増加させる	R6
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合<小学生>	%	—		79.1	R4	増加させる	R6
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合<中学生>	%	—		76.9	R4	増加させる	R6
住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合<小学生>	%	—		76.0	R4	維持する	R6

主な目標指標

	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度	年度	年度	年度		
主な目標指標	住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合<中学生>	%	-		75.8	R4	維持する	R6
	放課後児童クラブ待機児童数ゼロの継続	人	-		0	R4	0	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	《不登校児童生徒の出現率》 不登校児童生徒の出現率は、全国的に増加している。本市においても令和4年度一旦減少した小学校の不登校児童が、令和5年度は0.37%の増加となった。中学校においても、令和5年度は1.28%の増加となり、歯止めが困難な状況にある。別室対応等の物的な居場所づくりやSC、SSWをはじめとした教職員とのつながり、すなわち心理的な居場所づくりにつとめている。また、保幼小中一貫教育の推進による各校園での未然防止を重点とした取り組みや確実な情報の共有等によって、不登校解消に一定の成果は得られている。しかし、解消より新規の出現が多いことから不登校の出現率が増加傾向にある。今後も未然防止の取り組み推進を更に進める必要がある。
○ 予定どおり進んでいる		《いじめの認知件数/認知率》 令和5年度のいじめの認知件数・認知率については、令和4年度と比較して小学校は同数、中学校は微増を示した。新型コロナウイルスが5類に引き下げとなり、学校の活動が通常へと戻り、人の交流が増えているため、引き続き、些細な兆候も見逃さない組織的な対応を行うとともに、認知件数・認知率のみにとらわれず、より丁寧な指導を継続していく必要がある。
▲ 少し遅れている		《認知されたいじめの年度内解消率》 令和5年度いじめ調査の認知事象に基づく追跡調査結果において、解消率は小学校が89.8%、中学校が81.5%となった。未解消については、解消要件の見守り期間の3か月が経過していないものが含まれているため、解消率のみに着目せず個別の状況を丁寧に確認する必要がある。今後も、各校のいじめ防止基本方針に基づき、実態把握や情報共有、組織的な対応を徹底し丁寧な指導を行うとともに、関係機関と連携した体制強化を図っていく。
× 大幅に遅れている		《いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合》 いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合は、年間3回のいじめ調査や追跡調査、児童生徒への丁寧な指導により、小学校では現状維持し、中学校では若干減少という結果であった。小中学校ともに高い水準を維持しているが、今後も児童生徒の豊かな心を育成するため、道徳科をはじめ、学校の教育活動全体を通じた取り組みの充実を図る必要がある。
		《学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合》 実施なし。
	《人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合》 実施なし。	
	《人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合》 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小学校で増加し、中学校では若干減少という結果であった。近年、小中学校ともに95%以上を維持しており、高い水準で推移している。教育活動全体を通じた丁寧な指導により、社会貢献等への意識が確実に身に付いてきている。今後更に高めていくため、ボランティア活動など体験学習等の充実を図る必要がある。	
	《自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合》 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合は、小中学校ともに増加している。日々の関わりの中で、児童生徒のよさを見つけ、ほめていることが児童生徒に伝わるようにほめるなど、意図的な働きかけにより、自尊感情や自己肯定感の基盤を育みたい。改定された生徒指導提要の趣旨にそった発達指示的な生徒指導を生かした授業づくりと学級経営、教育活動をさらに推進していく必要がある。	
	《住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合》 住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は、小学校で増加し、中学校では減少した。近年、小中学校ともに減少の傾向があったが、小学校で5.0%以上の増加が見られたことは大きな成果である。ここ数年、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域における行事が中止となっていることが要因であったと考えられるが、5類への移行とともに少しずつであるが行事等が実施されている。学校の教育課程内では、「丹後学」を通して、地域への理解と愛着を深めていく必要がある。	
	《放課後児童クラブ待機児童数ゼロの継続》 利用希望者の多いクラブでは、空き教室等を活用することで受入体制を確保するなどしながら、待機児童ゼロを継続することができた。また、保護者の就労支援の視点から、市内1か所で、日曜・祝日の受入れを実施した。利用者が増加している中、施設・保育室及び指導員の確保が課題である。	

5. 今後の施策展開の考え方(令和5年～令和6年度での主な取組)

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	子どもたちの自尊感情を高め、豊かな人間性・社会性を育むため、保幼小中一貫教育による交流学習や児童会・生徒会活動などの集団活動を充実させるとともに、道徳科をはじめキャリア教育等学校の教育活動全体を通じた系統的で一貫性のある指導の更なる充実を図る。
	2	いじめや不登校など、児童生徒の多様な課題に対応するため、臨床心理士による教育相談体制を拡充するとともに、教育支援センターの相談支援機能を更に高めるなど、個の課題やニーズに応じたきめ細かな相談支援体制の整備・強化を図る。
	3	地域の子ども教室では、体験活動だけでなく、教室間での情報交流はコロナ禍でできなかったが、支援しながら教室活動の維持、拡充に努める。青少年健全育成会では、各地域ごとに子どもの体験活動を実施するほか、あいさつ運動や夏休みパトロールなどで地域の子どもの見守り活動を継続する。また平成28年度からスタートした「放課後子ども教室」事業は、安定的運営を目指す。
	4	子どもたちの芸術や自然を愛する心豊かな感性を育むため、教育活動等における文化体験や芸術鑑賞など、国や府の様々な事業や学校支援ボランティア等を活用し、伝統文化や芸術等に親しむ機会を充実させるとともに、学校図書の充足率向上を図る。

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
生涯学習課	安達 純

重点目標	5	生涯にわたる豊かな学びを支援します
基本の方針	まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。	

1. 施策の方向性 PLAN

1. 生涯学習の体制づくり	①市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます。 ②市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。 ③市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。 ④多様化する地域課題に対応するため、地区公民館機能を含む新たな地域コミュニティ組織の立ち上げなど、公民館と地域コミュニティのあり方について見直しの検討を進めます。
2. 人権教育の推進	①人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を進めます。 ②さまざまな人権問題について関係法律の理念にのっとり、正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。
3. 社会教育施設等の整備充実	①公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。 ②老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。 ③市民の情報拠点であり、憩いの場である市立図書館の今後のあり方について、検討を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市子どもの読書活動第三次推進計画	本市の将来を担う子どもたちが、今後も更に本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるように、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するために策定	令和2年3月	令和2年度～令和6年度	
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	

###

2. 主な取組と構成事務事業一覧 PLAN DO CHECK ACT

1. 生涯学習の体制づくり		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
① 市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます。 ② 市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。 ③ 市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。 ④ 多様化する地域課題に対応するため、地区公民館機能を含む新たな地域コミュニティ組織の立ち上げなど、公民館と地域コミュニティのあり方について見直しの検討を進めます。					
1	社会教育委員設置事業	生涯学習課			
	社会教育委員を設置し、社会教育行政全般について調査・研究及び審議し、答申及び建議を行うことによって、市民の声を反映した社会教育事業を推進する。	474	364	503	現状維持
2	はたちを祝う式典開催事業	生涯学習課			
	人生の節目としての式典を開催することによって、20歳になったことの自覚を促すとともに、今後自らの人生を生き抜こうとする青年を祝い激励する。	1,183	1,254	1,079	改善・効率化
3	青少年教育事業	生涯学習課			
	地域の青少年を守り育てる活動を支援し、将来を担う青少年の心豊かな人間の基礎づくりと健全な成長を促す。	1,057	1,128	1,501	現状維持

1. 生涯学習の体制づくり		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
4	高齢者教育事業	生涯学習課	2,384	3,135	2,809	現状維持
	高齢者大学の講座を市内全域で実施することによって、高齢者の社会参加と生きがいづくりに貢献するとともに、その知識や経験を活かした地域活動を推進する。					
5	中央公民館管理運営事業	生涯学習課	36,281	35,820	33,351	現状維持
	地域住民の学習及び交流活動の拠点として設置されている地区(自治)公民館活動を支援し、地域の活性化を推進する。					
6	地域公民館管理運営事業	生涯学習課	21,783	26,337	28,825	現状維持
	地域の学習・コミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。また、社会教育活動、生涯学習等を行う拠点として、峰山、丹後及び弥栄の各地域公民館の管理運営を行う。					
7	公民館一般経費	生涯学習課	32,500	31,824	33,320	現状維持
	公民館の事務事業に必要な公用車などを適切に管理するほか、会計年度任用職員を各地域公民館に配置し、公民館の円滑な運営を図る。					
8	図書館管理運営事業	生涯学習課	71,294	67,036	77,554	現状維持
	生涯学習の拠点施設として、市民の読書、調査研究等の要求に応えるよう施設整備を進めるとともに、様々な資料や情報を収集、整理、保存し提供するための図書館・図書室運営を行う。					
9	社会教育総務一般経費	生涯学習課	3,342	3,366	3,533	現状維持
	会計年度任用職員を配置し社会教育事業を円滑に実施するほか、女性教育活動団体に対し活動支援の補助金を交付し生涯学習の振興を図る。					
2. 人権教育の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を進めます。						
② さまざまな人権問題について関係法律の理念にのっとり、正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。						
10	人権教育事業	生涯学習課	181	224	269	現状維持
	あらゆる人権問題について正しく理解し、認識を深めるための学習機会を提供するなど、人権教育を推進することにより、人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現を目指す。					
3. 社会教育施設等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。						
② 老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。						
③ 市民の情報拠点であり、憩いの場である市立図書館の今後のあり方について、検討を進めます。						
11	地区公民館管理運営事業	生涯学習課	5,526	4,329	4,615	現状維持
	地域住民の身近な生涯学習・地域活動の拠点である、網野地域の地区公民館を維持・管理する。					
12	峰山いさなご施設管理運営事業	生涯学習課	9,137	9,400	10,063	現状維持
	林業の振興のほか、スポーツ及びレクリエーション活動による市民の健康づくり、生きがいづくりを推進し、市民福祉の向上を図る。					
13	マスターズピレッジ管理運営事業	生涯学習課	15,771	16,830	17,283	現状維持
	大宮ふれあい工房(陶芸・染色体験等施設)、ふれあいスポーツ広場等を管理運営することで、市民の交流及び健康づくりの場を提供し、生涯学習の推進を図る。					
14	アグリセンター管理運営事業	生涯学習課	6,631	7,146	6,827	現状維持
	施設の維持管理及び運営を行い、農業・農村の活性化及び地域住民の福祉・健康増進に寄与する。					
15	たちばな会館管理運営事業	生涯学習課	1,173	1,170	1,405	現状維持
	橘地区における生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。					
16	網野教育会館管理運営事業	生涯学習課	1,216	1,364	1,958	現状維持
	教育及び地域の文化活動・生涯学習の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。					

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。								
	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値		
主な目標指標			年度	年度	年度	年度	年度	年度	
	青少年の体験活動事業数	事業	42	H25	31	R4	60	R6	
	趣味・教養講座数	事業	29	H25	54	R4	35	R6	
	地域課題学習講座数	事業	2	H25	10	R4	10	R6	
	高齢者大学の参加者数	人	789	H25	692	R4	1,000	R6	
	人権学習会の参加者数	人	820	H25	514	R4	1,200	R6	
	図書の年間貸出冊数(市民1人当たり)	冊	5.2	H25	5.48	R4	7.0	R6	
地域公民館施設の利用回数	回	4,308 (令和元年度) ※改正時追加指標	R1	3,793	R4	7,000	R6		

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK **ACT**

※この項目は、令和5年度版に更新しています

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	▲	《青少年の体験活動事業数》 青少年健全育成会等関係団体等と連携して子どもたちの健やかな成長を支援する体験活動や地域活動を実施、支援することができた。今後も社会教育団体や学校、地域と連携・協力をしながら学習・体験の機会を提供する。 《趣味・教養講座数》 地域公民館での講座や地区公民館での取組など、市民の自発的な学習を支援し継続的な学習の機会を提供することができた。さらに地域や民間団体などによる自主的な活動を促進するための支援をしていく。 《地域課題学習講座数》 各町公民館連絡協議会や地域公民館を中心に地域の現状把握や課題共有に努め、講座や研修を実施している。 新たな地域コミュニティへ移行する地域においても、地域課題を解決する取り組みを継続できるよう働きかけていく必要がある。 《高齢者大学の参加者数》 高齢者の生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりに寄与することができた。参加者の減少や内容のマンネリ化等の課題について参加者アンケートを実施し、今後の高齢者大学のあり方について検討。高齢者に限らない全市的な学びの講座への転換を検討している。 《人権学習会の参加者数》 人権講演会や人権映画会、障害者交流研修会等を通じて、人権学習の機会を提供することができた。社会情勢が目まぐるしく変化する中、人権問題は年々多様化かつ複雑化しており、それらを適切に把握し、効果的な学習機会を提供し啓発を広げていく必要がある。 《図書の年間貸出冊数(市民1人当たり)》 コロナ拡大により利用者が減り、令和3年度には増加したが、令和4年度はわずかに減少し、まだコロナ禍以前の水準までは回復していない状況であった。令和5年度も前年度とほぼ同水準で推移している。各種行事はおおむね計画どおりに実施することができ、市民の読書推進を図ることができた。 今後は、未利用者への図書館活動の周知により利用拡大を図るとともに、都市拠点公共施設整備について、新施設の検討を進めていく必要がある。 《地域公民館施設の利用回数》 コロナの感染症上の位置づけが5類になったことから、利用回数が増加したがコロナ前までは戻っていない。 今後は、社会教育活動や生涯学習及びコミュニティ活動を行う拠点として管理運営を行い、地域の身近な課題、生活課題等に即した学習機会の提供に努める。 ※平成30年12月丹後地域公民館耐震強度不足のため貸館休止、平成30年12月から令和元年10月までは丹後庁舎を、10月から令和3年3月までは丹後庁舎と旧豊栄小学校を代替施設として使用した。 ※平成30年度～令和2年度の数値は、代替施設の数値を含めた数値。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
×		
×		

5. 今後の施策展開の考え方(令和5年～令和6年度での主な取組)

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	新たな地域コミュニティへの移行が始まる中、公民館体制及び新たな地域コミュニティにおける公民館活動の推進について、地域や関係機関等との協議等をいねいに進める必要がある。併せて都市拠点整備の中で新たな図書館のあり方について検討する。
	2	講演会の参加者が固定化傾向にあるため、講演の内容について、同和問題など継続的な課題はあるものの、インターネットによる人権侵害や自己実現、幸福追求など新たな人権課題にも目を向けながら、幅広く人権について考える機会を提供していく。
	3	市文化芸術振興計画に基づき、関係団体等と連携し、優れた芸術・文化の鑑賞機会の提供、地域の特色を活かした芸術・文化活動を実施並びに支援するとともに、文化活動を支える人材育成を地道に取り組む。
	4	必要な修繕の実施を行うなど、利用者が安心・安全に利用できる環境を整備し、併せて利便性の向上を図るとともに、今後の施設の在り方を検討する必要がある。

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
文化財保存活用課	村田 雅之
生涯学習課	安達 純

重点目標	6	歴史・文化芸術を活かし、豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育みます
基本の方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	①京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ②子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。
2. 地域の文化財の総合的な保存と活用	①市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ②京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画に基づき、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。
3. 資料館施設等の整備充実	①市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ②児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。
4. 文化芸術活動の推進	①「京丹後市文化芸術振興計画」に基づき、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ②市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市文化財マスタープラン	市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの	平成18年10月	計画期間の定めなし	
国史跡網野銚子山古墳整備基本計画	「丹後王国」を代表する国史跡網野銚子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元からの検討を加えて基本計画を策定した	平成23年3月	当面の計画として概ね6年間	当面整備計画として概ね6年の計画も策定
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	
京丹後市文化財保存活用地域計画	「丹後半島」における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化や文化財を「光」ととらえ、「光」を未来につなぐ誇りあるまちづくりを進める指針とするもの	令和4年12月	令和5年度～令和9年度	

#

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。					

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
1 文化財保護啓発事業 市内に数多く残されている文化財や調査成果などを市民などに公開することで郷土の歴史や文化財について学ぶことのできる機会を提供し、その認識を高める。		文化財保護課			統合(整理)

2. 地域の文化財の総合的な保存と活用		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画を策定し、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。					

2 指定文化財等管理事業 文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。また、指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。		文化財保護課	4,546	6,737	10,953	統合(整理)
3 遺跡整備事業 丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。		文化財保護課	46,150	47,561	53,884	拡大
4 遺跡発掘調査等事業 発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。		文化財保護課	6,606	5,253	4,458	現状維持
5 地域文化財総合活用推進事業 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。		文化財保護課	6,565	4,860	5,422	現状維持
6 地域文化財総合活用推進事業【繰越】 市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。		文化財保護課	-	692	-	

3. 資料館施設等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。					

7 郷土資料館管理運営事業 民俗資料等の収蔵、調査並びに公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。		文化財保護課	29,484	2,756	2,161	現状維持
8 古代の里資料館管理運営事業 考古資料・美術工芸品等の収蔵・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高める。		文化財保護課	11,412	13,246	13,932	現状維持
9 資料館等指定管理施設運営事業 琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。		文化財保護課	8,977	8,770	10,195	現状維持

4. 文化芸術活動の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。						
	10 文化芸術事業	生涯学習課				
	市民の豊かな心を育み、生きがいのある生活を送り、地域の生活文化を育て、ゆとりと潤いのある地域づくりを推進するため、各種文化芸術活動を支援する。また、文化芸術振興審議会を設置し、文化芸術振興計画の策定に向け、調査・審議する。		35,645	33,906	37,020	現状維持

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。							
	主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時 年度	実績値(現状) 年度	目標値 年度		
	文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数	人	1,468 (5事業、17講座) H25	560 R4	1,700 R6			
	資料館、文化館入館者数	人	13,808 (3施設) H25	10,465 R4	18,000 R6			
	史跡整備	遺跡	6 H25	7 R4	8 R6			
	京丹後史博士の認定者数	人	-	66 R4	120 R6			
	文化協会加盟サークル数	団体	170 H25	117 R4	200 R6			
	文化芸術事業の開催回数	回	- R1	49 R4	100 R6			
	京都府丹後文化会館利用者数	人	- R1	21,774 R4	42,000 R6			

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる		《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》 新型コロナウイルス感染症の関係により休止していた京丹後史博士育成講座を再開した。1日に4講座実施(延べ46名)。また、京丹後市文化財セミナーは2回開催した(155名)。このほか、外部からの出前講座等の対応を行った(21回、522名)。 今後も引き続き、セミナーや講座を通常通り開催し、目標値に近づけるようにしたい。 《資料館、文化館入館者数》 新型コロナウイルス感染症を契機に学校関係の利用が減少しているが、企画展示などの成果により前年度実績と比べ入館者は微増。コロナ前の水準には達していない。 今後は、各館ともに対策を講じながら事業実施を行い、集客増につなげていきたい。 《史跡整備》 網野銚子山古墳整備事業は、京丹後市史跡整備検討委員会の指導を得ながら平成29年度には環境整備基本設計を実施し、平成30年度より整備工事を進めている。 令和5年度は、検討委員会の指導を得ながら墳丘樹木の整理伐採、墳丘の盛土補修、周溝内外の表示、葺石の一部復元を行った。今後、駐車場、休憩施設整備などを行い、令和6年度には完成予定である。 《京丹後史博士の認定者数》 令和5年度は1日に4講座を実施し、延べ46人の方に参加いただき、認定者数は67人となった。6年度はガイド養成や文化財調査担い手育成などの新講座に移行を予定している。 《文化協会加盟サークル数》 コロナ及び高齢化のため多くの団体が脱退した。各加盟団体が実施する教室や大会、市協会が実施する総合文化祭、サークル体験会を通じて、市民へ芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も、市民が文化力を高め、加盟サークル数増加にもつながるよう協会を支援していく。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
		《文化芸術事業の開催回数》 京丹後アートフェスティバルを実施し文化芸術事業の周知と実際に体験してもらう機会を提供することができた。本物の舞台芸術体験事業を小中学校で行い、団体支援として文化協会が行う各町域での文化祭や総作品展、サークル体験会、ケーブルテレビ等を活用した団体PRのほか、丹後文化事業団が行う事業支援等を実施し、市民が文化芸術に触れる機会や場所の提供ができた。 《京都府丹後文化会館利用者数》 コロナの感染症上の位置づけが5類になったことにより、事業が予定通り実施できるようになった。近隣市町と連携し丹後地域全体での利用拡大計画を立てる必要がある。

5. 今後の施策展開の考え方(令和5年～令和6年度での主な取組)

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	令和5年度から実施している京丹後市文化財保存活用地域計画、歴史文化都市宣言に基づき、庁内や関係団体との連携を図り、多面的な文化財の保存・活用を進める。また文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な展示、体験事業を開催するとともに、出前講座への積極的な対応もを行い、学習する機会の充実を図る。
	2	網野銚子山古墳の整備事業では、墳丘の補修、園路整備、周濠整備のほか、進入道路、駐車場等の整備を行う予定である。これにより、市民や外からの観光客に、日本海側最大の前方後円墳の姿を示し、地域学習や観光スポットとしての活用をはかる。
	3	丹後古代の里資料館、郷土資料館、琴引浜鳴き砂文化館を適切に維持管理するとともに、それぞれ収蔵資料の内容から機能分化し、市民や外からの観光客に、地域学習や観光スポットとしての活用を図る。

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
学校教育課	川村 義輝
生涯学習課	安達 純

重点目標	7	たくましく健やかな体づくりと生涯スポーツを推進します
基本的方針	子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。 食育は、生きるうえでの基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるものであることから、子どもたちが、自然の恩恵や「食」に関わる人々への感謝、理解を深めるとともに「食」に関する適切な判断力を身に付けることを目指します。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 健康な体づくり	①子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。 ②喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。 ③児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の教育活動全体を通じて一貫した体育指導を進めます。 ④学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用し、子どもの体力・運動能力の向上につながる取組みを進めます。
2. 食育の推進	①幼児、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、給食を生きた教材として活用するとともに、横断的な食育指導の充実を図ります。 ②地域の伝統的な食文化への理解を深め、郷土に関心を寄せる心を育むため、給食の献立に地元食材や郷土食を積極的に取り入れます。 ③体験学習や調理実習等の活動を通じて、「食」への感謝の気持ちを育むため、家庭や地域、地元生産者等と連携した食育の取組みを一層推進します。
3. 地域スポーツ活動の推進	①スポーツ推進委員をはじめ公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事への協力等、スポーツの普及を図ります。 ②市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、体育協会等の活動及び組織強化を支援します。 ③市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するため、市民総参加型スポーツイベント「京丹後チャレンジデー」を開催するなど、効果的なスポーツ情報と機会の提供を進めます。 ④障害のある人や配慮が必要な様々な人が、障害の種類や程度に応じて、身近な地域で皆と一緒に楽しく始めるニュースポーツの普及推進に努めます。
4. 競技力の向上	①学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。 ②体育協会と連携し、京丹後市総合体育大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進めます。 ③市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、ホストタウン相手国のオリンピックを含む代表選手など、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。 ④青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。
5. 社会体育施設等の整備充実	①社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。 ②社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設は廃止するなど、全体のバランスを考慮した施設の配置を進めます。 ③あらゆるスポーツの基礎となる陸上の競技力向上及びスポーツ交流人口の拡大を図るため、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場としての整備を推進します。
6. スポーツ観光のまちづくり	①自然豊かな地域とスポーツ資源を活用したスポーツイベントの開催、ジオパークの魅力を活用したアクティビティの場や機会を提供することで、より多くの方々が気軽にスポーツができる環境づくりにつなげ、多面的なスポーツ施策の展開を図ります。 ②スポーツを支えるスポーツボランティアの確保に向けた取組みを推進します。 ③2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人アスリートなど、国際社会との交流を進める「ホストタウン」の取組みと、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を通じ、文化交流や地域の活性化を図ります。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市スポーツ推進計画	年齢や性別、障害等を問わず、広く市民がその適正やライフステージに応じてスポーツに参画できるよう、中長期的な展望に立った「京丹後市スポーツ推進計画」を策定するもの	平成26年3月	平成26年度～平成29年度	第2次京丹後市スポーツ推進計画(平成30年度～令和9年度)
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力を全ての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

1. 健康な体づくり		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
① 子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。 ② 喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。 ③ 児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の教育活動全体を通じて一貫した体育指導を進めます。 ④ 学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用し、子どもの体力・運動能力の向上につながる取組みを進めます。					
1. 健康な体づくり		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
1 保幼小中一貫教育推進事業(再掲) 「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育の推進に向け、協議会及び専門部会で調査研究を行う。また、研修等を実施し、指導の一貫性を通じて子どもたちの確かな学力、豊かな心を育成するとともに、「丹後学」の充実を図る。		-	-	-	現状維持
2. 食育の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
① 幼児、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、給食を生きた教材として活用するとともに、横断的な食育指導の充実を図ります。 ② 地域の伝統的な食文化への理解を深め、郷土に関心を寄せる心を育むため、給食の献立に地元食材や郷土食を積極的に取り入れます。 ③ 体験学習や調理実習等の活動を通じて、「食」への感謝の気持ちを育むため、家庭や地域、地元生産者等と連携した食育の取組みを一層推進します。					
3. 地域スポーツ活動の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
① スポーツ推進委員をはじめ公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事への協力等、スポーツの普及を図ります。 ② 市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、体育協会等の活動及び組織強化を支援します。 ③ 市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するため、市民総参加型スポーツイベント「京丹後チャレンジデー」を開催するなど、効果的なスポーツ情報と機会の提供を進めます。 ④ 障害のある人や配慮が必要な様々な人が、障害の種類や程度に応じて、身近な地域で皆と一緒に楽しくするニュースポーツの普及推進に努めます。					
2 スポーツ推進委員活動事業		生涯学習課			
市民にスポーツに関する指導を行うスポーツ推進委員を委嘱し、住民の求めに応じた、身近な場でのスポーツの機会を提供することにより、市民が気軽に親しめるスポーツ活動を推進する。		2,697	3,133	3,566	現状維持
3 保健体育総務一般経費		生涯学習課			
社会体育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、スポーツ基本法に基づき設置したスポーツ推進審議会を運営し、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備及びスポーツ活動の推進を図る。		2,536	3,268	3,148	現状維持
4 地域スポーツ推進事業		生涯学習課			
ライフステージに応じた各種スポーツ大会を実施することで、市民の生きがいの実感や健康づくりを促進するとともに、スポーツを通じた交流機会を確保しスポーツ人口の拡大を図る。		2,904	6,629	7,919	現状維持
4. 競技力の向上		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
① 学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。 ② 体育協会と連携し、京丹後市総合体育大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進めます。 ③ 市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、ホストタウン相手国のオリンピックを含む体表選手など、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。 ④ 青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。					
5 社会体育団体体育成事業		生涯学習課			
スポーツ団体による主体的な活動を支援し、市民へのスポーツの普及と振興を図るとともに、スポーツによる青少年の健全育成と体力の向上を図る。		19,309	19,297	19,644	現状維持
5. 社会体育施設等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
① 社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。 ② 社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設は廃止するなど、全体のバランスを考慮した施設の配置を進めます。 ③ あらゆるスポーツの基礎となる陸上の競技力向上及びスポーツ交流人口の拡大を図るため、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の第3種公認陸上競技場としての整備を推進します。					

5. 社会体育施設等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
6	体育施設管理運営事業	生涯学習課	67,774	182,249	56,166	改善・効率化
	市民の身近なスポーツ活動の拠点施設として体育施設を管理することにより、地域スポーツの振興とスポーツ競技力の向上を図る。					
7	社会体育用学校開放施設管理運営事業	生涯学習課	1,624	2,725	1,684	現状維持
	地域住民にとって身近で利用しやすい学校体育施設を開放及び維持管理することにより、スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、もって生活文化の向上に資する。					
8	久美浜湾カヌーセンター管理運営事業	生涯学習課	2,822	5,116	3,991	現状維持
	豊かな自然の中で、カヌーを通して市民のスポーツ及びレクリエーションの振興を図り、心身の健康づくりに資するとともに、本市のスポーツ活動の拠点の一つとして地域の活性化に資するため、カヌーセンターの管理運営を行う。					
9	都市公園等維持整備事業	生涯学習課	-	48,498	81,966	現状維持
	都市公園を適正に維持管理し、市民が快適で安全・安心に利用できるようにする。					
6. スポーツ観光のまちづくり		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R3決算額	R4決算額	R5予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
①	自然豊かな地域とスポーツ資源を活用したスポーツイベントの開催、ジオパークの魅力を活用したアクティビティの場や機会を提供することで、より多くの方が気軽にスポーツができる環境づくりにつなげ、多面的なスポーツ施策の展開を図ります。					
②	スポーツを支えるスポーツボランティアの確保に向けた取り組みを推進します。					
③	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人アスリートなど、国際社会との交流を進める「ホストタウン」の取組みと、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を通じ、文化交流や地域の活性化を図ります。					
10	スポーツイベント推進事業	生涯学習課	2,746	5,784	5,490	現状維持
	観光分野と連携し、各種スポーツイベントの開催を支援することで、スポーツを通じた本市の魅力を発信し、交流人口の増加を図る。					
11	オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業	生涯学習課	23,191	-	-	終了・廃止
	東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン事業の実施により、スポーツツーリズムの推進、インバウンドの増加及びスポーツによる地域の活性化を図る。					
12	ワールドマスターズゲームズ関西推進事業	生涯学習課	1,698	1,749	2,516	現状維持
	ワールドマスターズゲームズ関西(WMG)の取組を通じて、本市の滞在型スポーツ観光の推進、障害者スポーツの基盤づくり及び地域の活性化を図る。					
13	東京2020オリンピック聖火リレー事業	生涯学習課	917	-	-	終了・廃止
	東京2020オリンピック聖火リレーを実施することにより、大会の機運醸成、ホストタウン事業などの成功に資するとともに、スポーツ振興、地域活性化などスポーツによるまちづくりを推進する。					

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。 食育は、生きるうえでの基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるものであることから、子どもたちが、自然の恩恵や「食」に関わる人々への感謝、理解を深めるとともに「食」に関する適切な判断力を身に付けることを目指します。							
	目標指標	単位	計画作成時	実績値(現状)		目標値		
			年度	年度	年度	年度		
主な目標指標	朝食を毎日食べる児童の割合<小学校>	%	97.8 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	96.0	R4	100	R6
	朝食を毎日食べる生徒の割合<中学校>	%	91.1 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	93.9	R4	95%以上	R6
	平日、午前7時より前に起きる児童の割合<小学校>	%	88.4 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R4	100	R6
	平日、午前7時より前に起きる生徒の割合<中学校>	%	77.2 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R4	95%以上	R6

	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度	年度	年度	年度		
主な目標指標	平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合<小学校>	%	91.6 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R4	100	R6
	平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合<中学校>	%	45.0 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし	R4	90%以上	R6
	小学生(5年生)の体力テスト全国平均以上	種目	8種目中7種目	H25	8種目中5種目	R4	全種目	R6
	中学生(2年生)の体力テスト全国平均以上	種目	8種目中4種目	H25	8種目中4種目	R4	全種目	R6
	成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	21.6 市民アンケート調査結果	H24	49.7	R4	65.0 (国の目標)	R6
	京都府民総合体育大会入賞競技数	競技	6 京都府民総合体育大会結果	H25	6	R4	10	R6
	公共スポーツ施設の利用回数	回	11,253 公共施設利用状況調査結果	H24	15,045	R4	14,000	R6
	スポーツイベント参加者数	人	-	R1	8,164	R4	18,600	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK **ACT**

※この項目は、令和5年度版に更新しています

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	▲	《朝食を毎日食べる児童生徒の割合》 朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小中学校ともに若干減少した。各校園における家庭向けの啓発及び児童生徒への丁寧な指導により確実に定着してきているが、今後も保護者との連携を更に密にし、児童生徒全員が朝食を毎日食べる取組を進めていく必要がある。 《平日、午前7時より前に起きる児童生徒の割合》 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし。 《平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合》 全国学力・学習状況調査及び京都府学力テストの児童生徒質問項目から外れたためデータなし。 《小学生(5年生)の体力テスト全国平均以上》 男子については、上体起こし、長座体前屈の2種目が全国平均を下回った。女子については、握力、上体起こし、長座体前屈の3種目が全国平均を下回った。引き続き、体育科を含む各校の教育活動全体を通じた体力づくりの取組等により、意識的に課題のある筋力・柔軟性などの運動能力について克服していく必要がある。 《中学生(2年生)の体力テスト全国平均以上》 男子については、上体起こし、長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの5種目が全国平均を下回った。女子については、握力、長座体前屈、ハンドボール投げの3種目が全国平均を下回った。引き続き、課題を踏まえ、体育科を含む各校の教育活動全体を通じた体力づくりの取組等により、意識的に課題のある運動能力について克服していく必要がある。 《成人の週1回以上のスポーツ実施率》 成人の週1回以上のスポーツ実施率は、目標を下回ったが、前回(平成28年度)と比べると大きく増加している。令和4年度は、コロナの影響もあり感染対策を講じながら、スポーツ推進委員の活動を再開し、地域でのニュースポーツ教室やノルディックウォーキング教室等を開催した。また、「京丹後チャレンジデー」の参加により日常的に運動し気軽に運動・スポーツに接するきっかけづくりに繋がった。 《京都府民総合体育大会入賞競技数》 2年間のコロナ禍による練習不足などから出場を見送った競技が複数あり、入賞競技数は、目標を下回った。一般社団法人市スポーツ協会が中心となり、競技スポーツ振興の活動の充実に取り組む。また人口減少に伴い、競技スポーツにおける指導者の確保、支援体制を整える必要がある。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
×		
大幅に遅れている		

進捗状況区分	評価	令和4年度成果と今後の課題
		《公共スポーツ施設の利用回数》 新型コロナウイルス感染症が市民生活に大きな影響を及ぼしたが、市民が負担なくスポーツ活動ができるように、年間を通して施設の無料開放を行ったことにより、市民の利用促進につながった。年間の利用回数はコロナ前に比べて大きく増加している。体育施設管理については、今後も、効率的で適切な施設の維持管理に努める必要がある。 《スポーツイベント参加者数》 コロナ禍から回復傾向にあるが、スポーツイベント参加者数は、目標を大きく下回っている。豊かな地域資源と四季を通じて様々なスポーツやレクリエーション活動が体験できる環境を活かしたスポーツ事業に取り組む必要がある。また、2027年に延期となったWMG関西大会の成功に向け、プレ大会の開催などの準備を進める必要がある。

5. 今後の施策展開の考え方(令和5年～令和6年度での主な取組)

ACT

※この項目は、令和5年度版に更新しています

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	子どもたちの基本的な生活習慣を確立させるため、学校園が連携し、発達段階に応じた指導を継続するとともに、丹後学を通じた学習や、地産地消・給食指導など、家庭、地域と連携した食育の取組みを更に推進する。
	2	市民のニーズに合ったスポーツの推進や、地区等での運動・スポーツに触れ合う「場づくり」など、きっかけづくりに取り組む。また関係団体等と連携しながら、多くの人がスポーツに親しめる機会を設ける。
	3	京丹後市スポーツ協会の更なる組織強化や事業充実等に向けた支援を継続し、各種スポーツ大会の実施や府民総合体育大会への出場選手の拡大を図り、競技力の向上を目指す。
	4	市内には多くの社会体育施設が点在しているが、市全体のバランスを考慮した施設配置と維持補修に取り組む。また、市民のニーズに即した新たなスポーツ・レクリエーション施設、スポーツ環境の整備を検討、推進する。
	5	交流人口の増加等、地域活性化を図るため、豊かな地域資源と四季を通じて様々なスポーツレクリエーション活動が体験できる環境を活かしたスポーツ事業に取り組む。「WMG2027関西」に向けた準備や取組を推進する。